

最終更新日： 2026年8月3日

授業科目名 (講義題目)	組織マネジメント			開講学期	後期
				曜日時限	火曜 II 限
				単位数	2
担当教員名	鳥取部 真己	講義コード	科目区分	対象学生	
	高橋 秀直	26176104	必修	1 年生／2 年生	
開講予定日	①10/6 ②10/13 ③10/20 ④10/27 ⑤11/10 ⑥11/17 ⑦11/24 ⑧12/1 ⑨12/8 ⑩12/15 ⑪12/22 ⑫1/5 ⑬1/19 ⑭1/26 ⑮2/2				
履修条件	特になし	キーワード	組織論、組織行動論、マクロ組織論、ミクロ組織論、戦略論、組織変革		
全体の教育目標	組織論の基礎的な概念や枠組み・理論を理解したうえで、学んだ概念や枠組み・理論を実践に活かすことを目的とします。	個別の学習目業	・組織論の基礎的な概念や枠組み・理論を理解する。 ・実務上の諸課題に対して、組織論の概念や枠組み・理論を用いて解決策を提示できる。		

授業の概要	本講義では、組織マネジメントにまつわる基礎的な概念や枠組み・理論を学ぶ。その中核には、経営学の中で発展してきた組織論を置く。組織論は、個人の組織での行動から企業組織間の関係まで幅広い内容を扱う広範な分野であるが、本講義ではいわゆるマクロ組織論を中心にミクロ組織論の一部を扱うこととする。一方で、MBAコースにおける組織マネジメントとして、ただ概念や枠組み・理論を学ぶのではなく、組織論における概念や枠組み・理論を、企業での実践へ応用・実践する力を涵養することに重きをおくことにしたい。そのために、本講義では反転講義を念頭に、レクチャーを最小限としてミニケースなどの企業事例をもとにした事例分析やケース・ディスカッションを行い、さらには講義トピックについての受講生のミニケース発表をクラス討議を行う。これらにより、組織論における概念や枠組み・理論の応用力や実践力の向上を図り、組織をマネジメントする実践力を涵養することにした。		
授業の最新情報 案内方法	・九州大学Moodle		
授業形態	・講義・演習 ・グループワーク ・ディスカッション ・プレゼンテーション	使用する 教材等	・スライド資料（電子媒体） ・映像・音声資料 ・テキスト（紙媒体） ・板書
授業の進め方	アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて、組織論の概念や枠組み・理論の実践への応用力を涵養する講義を進める予定である。第1には反転学習を部分的に取り入れる。受講生は、事前に指定した教科書のチャプターや配布するハンドアウトを一読して事前学習していることを前提にすることで、レクチャーに割く時間を減らしてミニケース発表やケース討議にあてる時間を確保する。第2には、事前学習で得た知識をもとに、ミニケースをクラス討議やグループ討議で分析することで、組織論における概念や枠組み・理論を実践的な知識として理解していく。第3には、各自がもつ自社・自組織の経営組織論上の問題意識をミニ・ケースにまとめて発表し、経営組織で学ぶ概念や枠組み・理論を用いて分析し解決策を提案することで実践力を涵養する。 ※講義内容は、予定の内容から変更する場合がある。		

教科書及び 参考図書	【教科書】 鈴木竜太（2018）『経営組織論』東洋経済新報社.（2,420円） ※この分野の初学者向けの教科書である。残念なことに本講義の全ての講義回をカバーしているわけではないので、各講義回の配布資料や参考文献で補ってほしい。
試験・成績 評価の方法等	（１）クラス討議への貢献 40％ （２） 自社・自組織の経営組織論上の課題にまつわるミニケースとケース・スタディの発表・提出 60％・・・受講生は、組織マネジメントを受講する上で、自社・自組織にまつわるなんらかの問題意識をもっているはずである。その問題意識を本講義で学ぶ組織論の概念や枠組み・理論にそって分析し、問題解決への提案に結び付けていく。それをミニケースとケース・スタディとして作成し、発表・提出する。提出する課題はPowerPointのスライド6枚以内、スライドの配分目安として、課題分が2枚程度、残りを分析や提言部分と考えてほしい。発表は、第3回～第12回の講義回に各1人～2人、第13回～第15回の講義回に各10人を予定しており、質疑応答内容をふまえて改訂したものを期末課題として提出する